

冬に流行する子どもの感染症

高温・多湿を好む夏かぜウイルスに対して、冬に流行する感染症のウイルスは、低温・乾燥を好みます。

インフルエンザ

R Sウイルス感染症を含む冬のかぜ症候群

ロタウイルスなどの感染性胃腸炎が冬の代表的な感染症です。

インフルエンザの流行は毎年繰り返されます。特に冬休み明け、児童が学校に戻ると感染が広がり、流行の勢いが増します。

マスク・うがい・手洗いの他、人混みを避ける、室内は加湿する等して予防しましょう。ワクチンは流行開始前の年内に済ませるのが効果的です

冬のかぜの中で、特に赤ちゃんに注意を要するのが、R Sウイルス感染症です。1歳未満の乳児が感染すると、細気管支炎や肺炎を起こしやすく、入院や人工呼吸が必要となることもあります。

迅速検査で診断できますので、赤ちゃんに発熱やゼーゼー、鼻水、鼻づまりなどの症状がある時には受診しましょう。

5歳未満の下痢症の原因は、ロタウイルスが最も多く、ノロ、アデノと続きます。真冬はノロ、晩冬から春にかけてロタがピークとなります。

ロタの感染症は生後6か月～2歳の乳幼児に多く、激しい嘔吐や白っぽい下痢便が特徴で、急激な脱水から意識障がいや痙攣（けいれん）を起こすこともあります。

患者の便や吐物に含まれるウイルスが、手から口に入り感染しますが、感染力がとても強く、手洗いでは防ぎきれません。

ワクチンは重症化予防に有効ですが、接種可能な月齢が限られますので、生後2か月のワクチンデビューに組み込むと良いでしょう。